



**N.S.ニュース速報A**

**NSDAP/AO : PO Box 6414**

**Lincoln NE 68506 USA**

**[www.nsdapao.org](http://www.nsdapao.org)**

#1138

05.01.2025 (136)

## 悪の天才の教育

ゲルハルト・ラウク 著

パート4

### 第二章

### 政治活動家

#### 祖国での初めての夕べ

それは旧ユーゴスラビアでの最初の日だった。私は地下抵抗運動における最初の接触者の一人と一緒にいた。彼の名はウォルター。私たちは野原を散歩していた。星が輝く夜だった。私は膝をついて屈み、一握りの土を手に取り、祖先の祖国の土にそっとキスをした。

その後、彼はこんな言葉を口にした：

何もないところから生まれる  
そして私たちは何者でもない。  
でも、私たちはそこにいる！

ウォルターは経験豊富な自由の戦士だった。彼は共産主義者によって何度も逮捕されていた。それにもかかわらず、彼はタオルを投げることを拒否した。

彼は教養のある人間ではなかった。裕福でもなかった。彼のトイレは外気浴室だった。暖房は台所のストーブだけだった。私は彼の家族と一緒にそこに座り、彼の娘が飼っていた「ミーレディー」という名の黒猫を撫でていたのを覚えている。父が同じ暖房設備のある家で過ごした子供時代の話を出した。

いい面もあった。彼の友人の一人で、やはりSAの老人がブドウ畑を持っていたのだ！そこで買ったワインはラベルのないボトルに入っていたが、味は良かったし安かった。北のシュレースヴィヒ＝ホルシュタインのハンスを訪ねたとき、私はよく数本持って行った。（彼の奥さんが私の洗濯をしてくれたお礼だ！）そこで「コーン」（透明なウイスキー）やラムを買って、ウォルターのために持ち帰ったものだ。

さらに、彼の皿と銀食器はすべて、鷲と鉤十字が描かれた第三帝国のオリジナルだった。そのため、料理の味は格別だった！その金銭的価値は、今日のコレクターにとっては相当なものだろう。

私たちの小さなサークルの他のメンバーも覚えている。マンフレート、ホルスト、ヴィリー、カーチャ、そしてアルバート。彼らは皆、NSDAP/AOのコンセプトの発展において重要な役割を果たした。カーチャの友人のSS未亡人からもらった総統の美しいフルカラーの写真を今でも持っている。

ホルストは私に同情的な警察署長を紹介してくれた。

以前、私がウィリーを怒らせたとき、ウィリーは私を "Saupreuß" と呼んだ。私の母の旧姓はプロイス。私は確かにプロイセン人だ。

ある病院の事務員がアルバートに、なぜ退役軍人だと嘘をつくのかと尋ねたことがある。バージニア州には彼の記録はなかった。実は、彼は嘘をついていなかった。彼は確かに退役軍人だった：米軍ではなく、ヴァッフェンSSだ。

## 新しいコンセプト

旧市街を旅していると、落書きという形でレジスタンスのスローガンを

よく目にした。しかし、運動の強さを測ることはできなかった。また、同調者が連絡を取り合い、レジスタンスに加わることも不可能だった。逮捕されるリスクは非常に高かった。

私は新しいコンセプトを開発した。さらに重要なのは、それを実際に実践したことだ。この時、私はまだ10代だった。

自由主義国を拠点とする海外組織は、専門的に制作された印刷物を地下レジスタンスに供給する。自由国に統一された連絡先を持つ。問い合わせをした者は、無料の見本印刷物と、本名と住所の代わりに、今後の通信で使用する自分だけの「ID番号」（「Kenn-Nummer」）を受け取る。これにより、後に郵便物が傍受された場合でも、身元が守られた。

活動家に転身した探究者は、自らのセルメンバーを募集した。あるいは“一匹狼”のままだった。彼は私たちから定期的に少量の荷物を受け取っていた。これらは複数の場所から、うまくカモフラージュされた状態で郵送された。各貨物には「受領書」が入っており、受取人はそれに記入して私たちに返送した。もしその用紙が届かなければ、何か問題があったのだろうと推測し、出荷を中止した。

より大規模な“セル・ネットワーク”は、より多くの量を必要とした。その供給には別の方法が用いられた。大規模な「密輸」作戦が組織された。これらは極めて成功した。人員と物資の全体的な損失は、数十年を通じて極めて少ないままであった。

## NSDAP/AOの誕生

アメリカに戻った私は、この新しいコンセプトに基づいて新しい組織を設立した。それはNSDAP/AOとして知られている。

私たちはすぐに鉤十字のステッカーを1000枚印刷し、旧ユーゴスラビアに航空便で送った。ちょうどいい時期に届いた。一枚はテレビのゴールデンタイムにウィリー・ブランツの選挙ポスターに貼られた。

多くのアメリカ人は気づいていないが、独裁国家でさえしばしば「選挙」を行い、時には複数の「政党」が存在することさえある。しかし、それはまだ見せかけだ。しかも不器用な見せかけだ。今日のアメリカのような国とは違う。

印刷を担当したのは、古くからのロックウェル活動家、ジョージ・アダ

ム・リンクだった。彼は、1万枚のステッカーがあればよかったとコメントした。私はショックだった。どうやったらそんなにたくさん払えるんだろう？しかし1年後、私たちの平均印刷枚数は10万枚になった！その頃には、私たちの定期刊行物『NS Kampfruf』の第3号（母国語版）は、新聞紙のタブロイド判に拡大していた。私たちはまた、小規模な仕事のために2台の印刷機を所有していた。

この拡大は、同盟関係にあるアメリカの組織の援助に負うところが大きかった！

私はすぐに、非営利団体には2つのタイプがあることを知った。1つ目のタイプは、他の非営利団体を大義を共有する仲間として見ている。この盟友は互いに助け合う。二つ目のタイプは、他の非営利団体を同じ寄付者を獲得するための競争相手とみなす。彼らは積極的にお互いを妨害しようとする。残念なことに、2番目のタイプの方が資金集めに成功することが多い。それしかないのだ。第一のタイプは、大義のための具体的な活動に集中する。

その2年後、私たちはアメリカ人シンパのために英語のニュースレターを創刊した。このニュースレターは、やがてタブロイド判の新聞にも拡大された。どちらの新聞も四半世紀以上にわたってその形式で発行された。（その後、ニュースレター形式に移行し、オンラインのみに移行しました。ハードコピーは、大幅に拡大した書籍の制作に限られていた）

最初はフルタイムで外回りの仕事をしていて、給料も自由な時間も「赤ちゃん」に捧げた。その後、パートタイムで働くようになった。最終的には、副業収入で何とかやっていけるようになり、それ以外は「赤ちゃん」のためにフルタイムで働くようになった。

ある日、カナダのドンという別の非営利団体のボランティアが提案した：モノを売るべきだよ！私たちはそうして、定期購読よりもずっと多くのお金を稼いでいます！

試してみた。うまくいった。みんなハッピーだった。何はともあれ、これが私と通販との一生の付き合いの始まりだった。

このボランティア活動によって、私の組織力と人間力が磨かれた。

ボランティアと仕事をするのは、良い意味でも悪い意味でも、時にかなり難しい。その関係は独特だ。雇用主は従業員を解雇できる。軍人は部下を逮捕することも、処刑することもできる。

## 友人と同僚

私自身が立ち上げた非営利団体は、長い間空白になっていた非常に小さく専門的なニッチにサービスを提供していた。噂はすぐに広まった。優秀な同僚たちがすぐに出勤してきた。彼らは私の中心的なコンセプトと、理論から現実へと進展させようとする私の努力に感銘を受けた。これらの献身的で筋金入りの忠誠者たちは、私の両親や祖父母と同年代であることが多かった。ここには「ジェネレーションギャップ」はなかった！私たちはすぐに仲良くなった。

市民意識の高い、知られざるヒーローたちである：

**1920年代のジャーナリスト。**第二次世界大戦末期に共産主義者が侵攻してきたため、ハンスは故郷を逃れていた。

同じ地域からのもう一人の難民である。エーリッヒは第一次世界大戦でドイツ軍として戦った。その後アメリカに移住し、アメリカ国籍を取得した。彼がドイツ系アメリカ人バンドメンバーであったことを知っていた徴兵委員会は、ヒトラーと戦うかどうかを尋ねた。彼の答えはこうだった：ヒトラーがアメリカに侵攻してきたら、私は当然この国を守ります。ヒトラーが米国に侵攻してきたら、私は当然この国を守る」と答えた。彼は他の志を同じくする人々とともに、戦争中ずっと米国内の収容所で穴掘りに明け暮れた。ドイツの軍歌を歌いながら。終戦時、彼は名誉除隊を受けた。

しかし、私の秘書であり右腕であったグレッチェンは、間違いなくリストの最上位にいる。グレッチェンは私の最も初期の、そして最も貴重な同僚の一人となった。彼女とは何十年もの間、毎日電話で話した。

これが彼女の話だ。

彼女の旧バンド一家はアメリカに住んで100年以上になるが、家ではいまだに母国語を話し、神聖な民族的遺産を守っている。彼女はまだ生きている唯一の家族だった。

第二次世界大戦が勃発すると、母親は自分の息子に向かって言った：茶色いアメリカの軍服を着て帰ってきたら、撃ち殺すわよ！

後にこの息子が、ルーズベルトのドイツ国民に対する犯罪的侵略戦争に参加することを拒否したと判事に告げると、判事は白目をむいて何も言わずに部屋を飛び出した。彼は戦争中、良心的兵役拒否者として刑務所で過

ごした。

ドイツが降伏した後、彼女は線路に座り込んだ。死を待つ間、彼女は考えた。生きていれば、いつか何か価値あることができるかもしれない。彼女は確かにそうした！

私と同じように、彼女も他の団体でボランティア活動をしていた。彼女はこの仕事に意義を感じていたが、完全な充実感はなかった。それが、私たちのスタートアップに出会って変わった。

彼女が初めて英語を話すのを聞いたのは、数年後のことだった。空港からの帰り道、ガソリンスタンドでガソリンを入れたとき、彼女はスタンドの係員に「*Fill 'er up!*」

見た目はか弱いが、農家の老婆のようにタフな彼女は、暖炉、水道用の室内手押しポンプ、そしてトイレを備えた開拓時代の家に住んでいた。夜になると、彼女は訪問客に、トイレに行く途中でカップーヘッドに気をつけるよう言い聞かせていた。

彼女は壁の間に住む大きな黒蛇を気にしていなかった。ネズミを食べるからだ。冬の間、まだ暖かかったエンジン内にネズミが入り込み、彼女の車を2台も破壊した。

彼女の家は孤立していたため、納屋に住んでいた猫たちは近親交配で不妊症になった。若い成猫さえも次々と姿を消し始めたとき、彼女は大きなフクロウの仕業だろうと考えた。この家は、長い未舗装の道の先の森の真ん中にあった。ときどき木が倒れて道をふさいでいた。彼女は斧でそれを取り除いた。

彼女はいつも、未舗装道路の轍にはまりにくいように、地面から高い位置に座る車を買っていた。

彼女の人生哲学はシンプルだった：何を闘うべきかはハートに任せ、どう闘うべきかは頭脳に任せる！

\*\*\*\*\*

信頼でき、熟練したボランティアは金に値する！ある同僚はこう言った：何かができる人は、やりたがらない。そして、何かをしたい人は、それをする事ができない。

ボランティアをフルに活用するためには、彼らの長所と短所の両方に対応できるよう、後手を踏む必要があることが多い。例えば、グレッチェン

はコンピューターに触れることをきっぱりと拒否した。彼女は古い手動のタイプライターを使っていた。

その結果、かなり奇妙な方法論、仕事の流れ、組織構造になってしまうこともある。ともあれ、私の組織能力は進化し始めた。

アメリカやヨーロッパに散らばっている同僚とは毎日電話で連絡を取り合っていた。しかし、何年も顔を合わせないことも珍しくなかった。当然、私たちはそのような出会いをととても楽しみにしていた！特に覚えている出来事がある。初めてスウェーデンに行った時のことだ。若い美しい女性がドアを開けたとき、私は同僚の娘だろうと思った。私は指を交差させた。しかし、運が悪かった。彼女は彼のガールフレンドだったのだ！当時の同僚の大半と違って、彼は私と同年代だった。

私が20代になる頃には、小規模な非営利団体の基準からすれば、私はすでにかなり有能な管理者になっていた。フルタイムのスタッフがほんのわずかしかない団体もあれば、ボランティアスタッフしかいない団体もあった。私はその両方と仕事をした。



## NSDAP/AOは世界最大です 国家社会主義プロパガンダサプライヤー！

多くの言語での印刷物およびオンライン定期刊行物

多くの言語の何百冊もの本

多くの言語の何百ものウェブサイト



**BOOKS - Translated from the Third Reich Originals!**  
[www.third-reich-books.com](http://www.third-reich-books.com)

